

令和2年度「佐賀県プログラミング人材育成・確保事業」業務委託に係る企画コンペ審査基準

項目		内容	配点	
プログラミング教育	カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラミング教育の内容は、仕様書中の「受講修了者の到達イメージ」が実現でき、県内企業等に就業できる人材が育成できるものとなっているか</li> <li>・提供するカリキュラムはプログラミング初心者であっても受講できるものか。また受講者がレベルに応じて受講できるようになっているか</li> <li>・プログラミング教育の開催方式（スケジュール、開催場所等）は、受講者が参加しやすいものか</li> <li>・受講者に教材費等の自己負担を求める場合は、適切な負担内容となっているか</li> <li>・自学自習等により受講者が更なるレベルアップを図ることができる内容となっているか</li> </ul>	60	90
	教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕様書中の「受講修了者の到達イメージ」の実現に向けて、適切な講師（補助員含む）や教材等のコンテンツが設定されているか</li> <li>・プログラミング教育の受講者が修了に至るまでのフォローアップ方法・体制は適切か</li> <li>・欠席や復習時に受講者が対応できるように、適切な形式で研修動画等のコンテンツが提供されているか</li> </ul>	30	
県内企業交流		<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内企業との交流機会が十分に確保されているか</li> <li>・県内企業が受講者に対して企業や事業のPRができる交流内容となっているか</li> <li>・交流機会を提供するにあたり、県内企業と受講者の接点が生まれる工夫がなされているか</li> <li>・県内企業との交流内容は、受講者が県内企業に親しみを感じられるとともに、就業後の働き方等を意識できる内容となっているか</li> </ul>	40	
事業広報		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の広報手段は受講者となりうるターゲット層へアプローチできるものか</li> <li>・単なる“プログラミング教室”の開催ではなく、修了後の就業等を意識させる等、受講意欲を駆り立てる広報が実現できるか</li> <li>・県内の関係団体等と連携した事業広報が実現できるか</li> </ul>	40	
実施体制		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施体制は十分か</li> </ul>	15	
事業経費		<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業経費の配分は適切か</li> <li>・経費の積算は企画内容に対して妥当か</li> </ul>	15	
合 計			200	